

『ころがったねえ』 2歳児 5月

エピソード

園庭で遊んでいたA児は、新しいサッカーゴールがあることに気付き、友達や保育者が遊ぶ様子を見ていました。そして、同じようにボールを持ってきて、ゴールにポイっと投げ入れたり、ボールを蹴ったりして遊び始めました。また、ゴールが気になる様子で、ネットやゴールの縁を触る姿もありました。

しばらくして、ボールを持ってゴールの方に歩いていったA児。ゴールの前で立ち止まり、少しの間じっとゴールを見つめ、ボールをゴールのネットの上に置きました。すると、コロコロとボールが転がっていき、A児はその様子を目で追っています。ボールが壁にぶつかって止まり、保育者が「転がったね」と言葉をかけると、A児は保育者の方を見て満面の笑みを浮かべ、「ころがったねえ」と言いました。A児は「もっかい!(もう1回)」と言って何度もボールを転がして遊びます。

ボールを勢いよく転がしたり、ネットの上にそっと置きゆっくり押し転がしたり、ボールが転がって壁にぶつかる「やった!」「ころがったねえ」と保育者の方を見て喜んだりしながら、繰り返し楽しんでいました。



保育者の思い

初めはボールを投げたり蹴ったりする友達や保育者の様子を見て同じように遊び始めましたが、ネットや縁の部分に触る姿からは「これはなんだ?」「どうなっているのかな?」というA児の思いが感じられ、その興味からこの遊びを思いついたのかなと考えました。ボールを持ちゴールの前で立ち止まった姿を見て、何かを考えているのかなと思いついて見守っていると、ボールをネットの上から転がしてみたので驚きました。今までの様々な遊びの経験から、自分なりに「こうやってみたらどうなるかな?」と思いついたことを試してみたのでしょうか。思い通りにいったのか、予想外だったのかは分かりませんが、A児の満面の笑みからは「先生も見てた?なんかおもしろいよね!」という思いが感じられました。A児が何を思っているのか想像して言葉をかけたり、思いに共感してA児の言葉を同じように返したりしたことが、その後も満足するまで繰り返し遊ぶ姿に繋がったのではないかと感じました。

子どもの育ちや学び

- ・友達や保育者が遊ぶ姿を見て、同じようにやってみようとボールを持ってきた姿からは、周りの人やものへの興味が広がってきているように感じます。
- ・ゴールをじっと見つめた後にボールをネットの上から転がした姿からは、今までの経験を思い出しながら「こうやってみたらどうなるかな?」と自分なりに想像したり考えたりする力が芽生えてきているように感じます。
- ・やってみておもしろいと感じたことを繰り返して遊ぶ姿からは、ボールの転がし方を変えたりボールが転がる様子を見たりしながら、自分の操作の仕方を変えるとボールの動きも変化することを何となく感じて、いろいろな方法を試しているように感じます。

家庭だったら・・・

保育者自身がそうであったように、サッカーゴールを見ると、つい「ゴールにボールを入れて遊ぶもの」という意識を自然と持つ方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回の出来事は、子どもならではの豊かな発想力を大切に見守ったり、子どもの「楽しい」「おもしろい」と感じたことに共感したりすることの大切さを改めて学ぶきっかけとなりました。ぜひご家庭でも、大人が正しいと思う遊び方に囚われず、子どもの新たな発見と一緒に楽しんでみて下さい。

